

第5期麻疹および風しん予防接種説明書

1. 風しんについて

風しんは、風しん患者の咳やくしゃみで飛び散る風しんウイルスの感染によって起こる病気で、潜伏期間は14日～21日間です。主な症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどですが、症状がでないこともあります。しかし、稀に血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することがあります。特に妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴などの先天性風しん症状群の赤ちゃんが生まれることがあります。

2. 麻疹風しん混合（MR）ワクチンの有効性

麻疹風しん混合（MR）ワクチンは、麻疹ウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。

接種を受けた人の95%以上に、感染予防に必要な抗体ができるといわれています。

3. ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状（疼痛、腫脹、硬結、熱感など）です。稀にみられる副反応としては、アナフィラキシーという重いアレルギー反応、血小板減少性紫斑病、脳炎などがあります。

4. 接種を控えるべき方

次のいずれかに該当すると認められる場合は、予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱のある方（体温が37.5℃を越える場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 過去に予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）を起こしたことがある方
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断された方

5. 接種に際し医師との相談が必要な方

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液その他慢性の病気で治療を受けている方
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある方
- ③ 今までに免疫不全の診断がなされている方および近親者に先天性免疫不全症の方がおられる方
- ④ この予防接種の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある方

（接種後の注意事項）

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおきることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 予防接種後に高熱やけいれんなどの異常があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部分を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。

6. 重篤な副反応発生時の救済制度について

定期の予防接種を受けた方が、ワクチン接種によって重篤な副反応が発生した場合は、医療費・医療手当・障害年金・遺族年金等、一定の給付を行う制度があります。副反応や予防接種健康被害救済制度について不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。